



令和6年の始まりにあたって

校長 金山 光宏

令和6年の年頭ですので、「あけましておめでとうございます」という挨拶を互いに交わしたい気持ちがあるのですが、元日に発生した大きな地震災害のことを思うと、言い淀^{よど}んでしまうのではないかという感覚があり、声に出すことを躊躇^{ちゅうちよ}する自分がいます。

本来、お正月という節目は、今年1年の「しあわせ」を願い、日頃は会えない家族や親戚が集まったり、懐かしい友人との旧交を温めたりする機会です。災害はいつ起こるか分からないとは言うものの、元日に起こったこの度の災害は、「しあわせ」を願う平穏^{へいおん}な年の初めと大きくかけ離れた有様であり、時間が経つにつれて明らかになる被害の大きさに本当に心が痛みます。

新潟市においても、液状化などの被害によって日常の生活に困難が生じる事態となっています。地面から地下水や砂が噴き出し、アスファルトがいとも簡単に持ち上げられている様子に、どれだけ技術が進展していても自然災害の脅威には抗いきれないと感じさせられます。

災害に対して「防災」という言葉とともに、「減災」という言葉も用いられます。災害からは逃れ難くとも、何とか、被害を最小限にとどめておくための備えや対処が必要なのです。被災された方々への支援とともに、今回の災害を受けて、防災と減災という視点でどうすることがより良いのかを皆で考えていきたいと思えます。

さて、今日の話の最後に、先ほど述べた「しあわせ」についてもう少し話をします。私は「しあわせ」という字を意図して「倅せ」と書くことがあります。諸説ありますが、人偏の付く「しあわせ」は人との関わりの中で生じるものです。自分一人の幸せではなく、周囲にいる人がみな幸福感に包まれている様子のことを意味しています。「しあわせ」というものは、人との関わりの中で感じられるものであり、人と分かち合ってこそ真の「しあわせ」が得られるものと私は考えています。被災した皆さんに再び倅せが戻り、そして、皆さんにとってこれからの一年が倅せな一年であることを心から願って、今日の話を終わります。



<令和6年1月9日 全校集会 校長講話>

保護者、地域の皆さま

新年を迎え、初春のご挨拶を申し上げます。
本年も生徒たちの健やかな成長におきて、精一杯努めてまいります。
引き続き、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

令和6年1月 白新中学校 教職員一同